

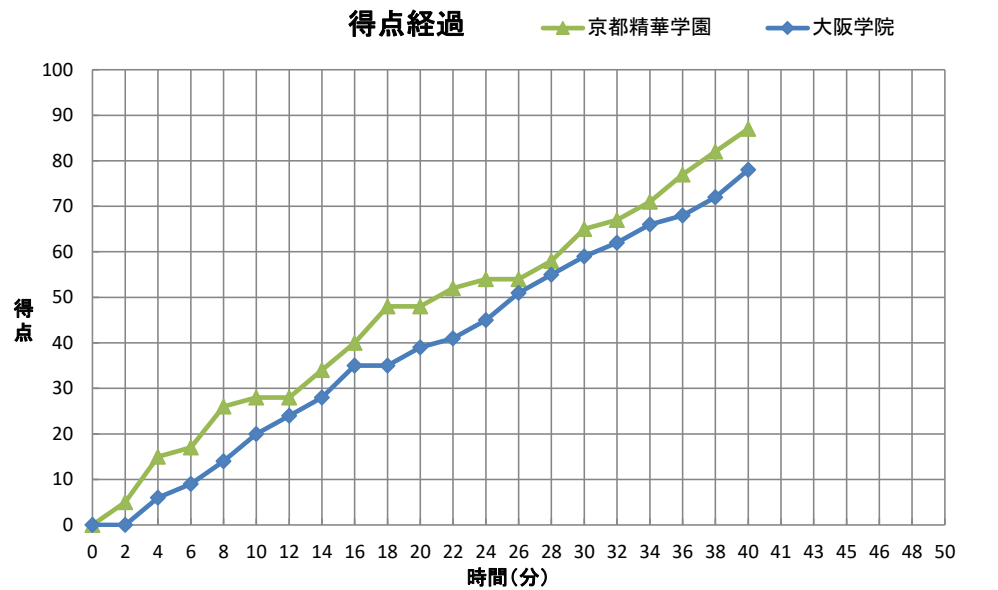


令和4年度
第33回近畿高等学校バスケットボール新人大会

個人トータル表

男子		2月19日		11:05 開始															
準決勝		滋賀ダイハツアリーナ		A															
◎ 京都精華学園 87		<table border="1"> <tr><td>28</td><td>1st</td><td>20</td></tr> <tr><td>20</td><td>2nd</td><td>19</td></tr> <tr><td>17</td><td>3rd</td><td>20</td></tr> <tr><td>22</td><td>4th</td><td>19</td></tr> </table>		28	1st	20	20	2nd	19	17	3rd	20	22	4th	19	78		大阪学院	
28	1st	20																	
20	2nd	19																	
17	3rd	20																	
22	4th	19																	
番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則	番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則						
* 1	金井 奏太	10	2	1	2	2	* 4	穂田 要太	2	0	1	0	0						
2	大迫 優成	-	-	-	-	-	5	大村 虎太郎	-	-	-	-	-						
3	矢野 陽向	4	0	2	0	1	* 6	太田 凜	45	6	10	7	2						
* 6	上野 叶翔	23	1	8	4	0	7	西村 隆成	0	0	0	0	1						
7	佐藤 優真	-	-	-	-	-	* 8	高口 絢太	8	0	4	0	1						
13	新開 温矢	0	0	0	0	0	9	末継 惇也	-	-	-	-	-						
14	西村 晴太	3	1	0	0	1	10	中島 暖登	9	0	4	1	4						
* 17	藤内 翔真	8	1	2	1	0	* 11	池田 頼鷹	2	0	1	0	5						
18	中井 楓弥	-	-	-	-	-	12	熊谷 蓮太郎	0	0	0	0	0						
19	善山 莞太	-	-	-	-	-	13	松岡 弘樹	-	-	-	-	-						
30	中西 飛翔	-	-	-	-	-	14	三田 麟太郎	-	-	-	-	-						
* 32	東郷 然	19	1	7	2	2	15	水島 遊瑛	-	-	-	-	-						
34	前 和成	2	0	1	0	1	16	泉 勇雅	6	0	2	2	1						
39	内山 煌和	-	-	-	-	-	* 17	舟谷 陽人	6	0	3	0	1						
* 77	ソロモン レイモンド	18	0	9	0	3	18	宇都宮 隆汰	-	-	-	-	-						
コーチ	山崎 翔一朗					0	コーチ	高橋 渉					0						
Aコーチ	土本 光宏						Aコーチ	梁川 禎浩											
合計		87	6	30	9	10	合計		78	6	25	10	15						
主審: 北村 仁																			
副審: 大溝 貴広																			
副審: 北山 拓海																			

得点経過



CTO	1・2P	3・4P		OT1	OT2	OT3	OT4
TeamA	12:32	:	36:28	39:05	:	:	:
TeamB	5:10	16:49	35:47	38:56	39:45	:	:

〔戦評〕

男子準決勝は第1シード京都精華学園（京都1位）と大阪学院（大阪2位）の対戦となった。

京都精華学園 #1 #6 #17 #32 #77、大阪学院 #4 #6 #8 #11 #17 のスタートメンバーで試合開始。

第1Q、京都精華学園はマンツーマン、大阪学院はオールコート2-1-2ゾーンでスタート。京都精華学園 #77 のリバウンドシュートで先制。大阪学院はディフェンスで圧をかけるも京都精華学園 #1 #6 の3Pでリードする。大阪学院はタイムアウト後の #6 の3本連続3Pでリズムをつくるが、京都精華学園 #32 の3Pやジャンパーでリードを保ち28-20で1Q終了。

第2Q、大阪学院 #6 ドライブインからのフローターシュート、#11 の速攻で点差を詰める。京都精華学園タイムアウト後、大阪学院 #6 のスチールからの3Pなどで3点差まで追い上げるも、京都精華学園は巧みなゾーンオフェンスや #77 のリバウンドシュートで再び9点差に。大阪学院タイムアウト後もお互い白熱した攻防を繰り広げ48-39の京都精華学園リードで前半終了。

第3Q、京都精華学園は息の合ったコンビネーションプレーで加点、大阪学院は #10 リバウンドシュートや #8 #16 のミドルシュートで点差を詰めていき、その差は1点に。大阪学院は #6 のスチールからの速攻など、京都精華学園 #77 の交代の間に逆転を狙う。しかし、京都精華学園 #32 ドライブからのターンシュートや #6 のドライブからのジャンパーなど要所での得点でリードを広げ65-59で3Q終了。

第4Q、大阪学院は #6 の得点、京都精華学園は #32 の得点、お互い一歩も譲らない展開に。残り6分で京都精華学園 #77 がコートに戻り、リバウンドシュートで均衡がくずれず。大阪学院タイムアウト後 #6 のドライブからのバンクシュートを決め切り7点差に。今度は京都精華学園がタイムアウト。直後、京都精華学園 #1 のコーナー3Pが決まり2桁差のリードに。大阪学院は #10 リバウンドシュート、#6 も3スローや3Pを決め切るなど最後まで粘りを見せるも、京都精華学園が振り切り決勝へと進出した。ハイレベルで見たえのある試合であった。

戦評: 平川 清士

記録:

河瀬高校